

【取扱注意 解禁】

ラジオ・テレビ 平成 29 年 4 月 28 日（金）認定証交付式後
（14：30 メド）

新聞 平成 29 年 4 月 29 日（土）付朝刊

記者発表資料
平成 29 年(2017)4 月 26 日
市民文化部文化財課

日本遺産の認定について

概要

文化庁は平成 27 年度に「日本遺産」を創設し、平成 32 年（2020）の東京オリンピック・パラリンピックまでに、全国から 100 件程度認定する予定です。

出雲市は、「日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～」をテーマに平成 29 年 2 月 1 日付けで申請し、日本遺産審査委員会の審議を経て、このたび平成 29 年度の日本遺産に認定されることとなりました。

- これまでの全国の認定数（ ）は島根県内の認定団体
平成 27 年度 18 件（津和野町）
平成 28 年度 19 件（雲南市＋安来市＋奥出雲町）
- 平成 29 年度の全国の認定数
認定数 17 件（申請数 79 件）※県内では出雲市のみ認定。

認定内容

タイトル：日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～

概要：島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稻佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかしこの海岸線に、夕日にちなんだお社である「天日隅宮（あめのひすみのみや）」（出雲大社）と「日沉宮（ひしずみのみや）」（日御碕神社）が祀られていることはあまり知られていません。

古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されてきました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。

海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。

今後の予定

今後、認定されたストーリーを基に、日本遺産を広く国内外へ情報発信し、多くの観光客に訪れていただくため、日本遺産魅力発信事業を推進するための協議会を組織し、取組を進めていきます。

- 4 月 28 日（金）認定祝賀セレモニー【午後 3 時 市役所正面玄関東側】
- 5 月中 出雲市日本遺産魅力発信事業推進協議会（仮称）設立
日本遺産魅力発信推進事業交付申請
- 7 月 日本遺産魅力発信推進事業交付決定（予定）
推進事業スタート

① 申請者	出雲市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p>島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかしこの海岸線に、夕日にちなんだお社である「天日隅宮」（出雲大社）と「日沉宮」（日御碕神社）が祀られていることはあまり知られていません。</p> <p>古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されていました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。</p> <p>海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。</p>				
				
稲佐の浜の弁天島と夕日		日御碕神社の日沉宮		
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	出雲市 市民文化部 文化財課 文化財保護係 係長 三原一将			
電 話	0853-21-6893	FAX	0853-21-6617	
E-mail	mihara-kazuyuki@city.izumo.shimane.jp			
住 所	〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760 出雲弥生の森博物館内 出雲市役所 文化財課			

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図 (地図等)





<大社地域>



<日御碕・宇龍地域>



<長浜地域>



< 鷺浦・猪目地域 >

ストーリー

神が創り出した海岸線

『出雲国風土記』の「国引き神話」では、出雲平野の北にそびえる山塊と西を縁取る砂浜は、巨大な神ヤツカミズオミヅヌガ、海の彼方から引き寄せた「国（土地）」と使った「綱」とされています。また、砂浜と山塊の境に位置する浜は、オオクニヌシが高天原の使者タケミカヅチと会見して、国を譲り渡すことを承諾した『古事記』の「国譲り神話」の舞台として知られています。

西方の海に弓なりに開くこの海岸線は、滑らかな砂浜から岩肌がむき出しの荒磯へとダイナミックに変化し、まさに神業によると例えられるにふさわしい景観です。

奈良時代に「伊那佐之小浜」や「出雲御崎山」と記されたこの海岸線は、今ではそれぞれ「稲佐の浜」や「日御碕」の名で親しまれており、いずれも日本海に沈む夕日の絶景エリアとして人々に愛されています。

しかし、出雲の人々がいにしえからこの地で日の入りにちなんだお社である「天日隅宮」と「日沉宮」を祀り、夕日に畏敬の念を抱いていたことはあまり知られていません。

稲佐の浜の夕日と「天日隅宮」

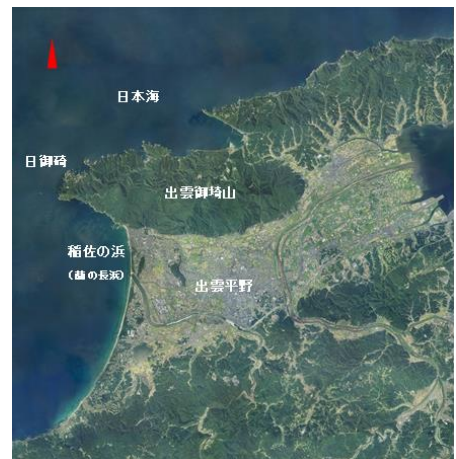
夕暮れ時の稲佐の浜に立つと、^{くれない}紅に染まる空が渚にたたずむ^{べんてんじま}弁天島のシルエットを際立たせる幻想的な光景が広がります。また、弁天島より南では見渡す限りの夕焼け空と、海に溶け込む^{あかね}茜色の光が織りなす大パノラマを体感できます。

稲佐の浜（^{そのながはま}菫の長浜）は南北約10kmにわたる砂浜で、かつては西へ開いた出雲の海の玄関口として多くの船や人を迎えました。「国譲り神話」の舞台となったのは稲佐の浜の北端で、この弁天島がある辺りと言い伝えられています。ここでオオクニヌシは自身の霊が住むための宮を築くことを条件に国譲りを承諾しました。この宮が浜から東へ1kmほど離れた出雲大社であり、『日本書紀』では「天日隅宮」と記されています。その名称から、この地がかつて日が沈む聖地として認識されていたことがうかがえます。

今でも旧暦10月10日には日没を待って、出雲大社の神職が全国から参集される^{やおよろず}八百万の神々をお迎えする「^{かみむかえ}神迎神事」がこの稲佐の浜で執り行われています。太古から変わらない日の入りへの思いは、今日まで連綿と受け継がれています。

日御碕の夕日と「日沉宮」

日御碕の海岸線は、奇岩や絶壁が複雑に入り組む荒々しい景観を呈しており、稲佐の浜とはまた異なった魅力のある夕日や景色を見ることができます。平安時代初期、画聖の^{こせのかなおか}巨勢金岡は、この海岸線にある島の一つを絵にしようとしたのですが、朝夕刻々と変化する美しさをついに描ききれず絵筆を投げたそ



島根半島西部



稲佐の浜（菫の長浜）



夕焼け空と弁天島

うです。「^{ふでなげしま}筆投島」の名称の由来として伝わるこのエピソードは、そのことを端的に示しています。

日御碕の名が示すとおり、古くから「日」に縁がある岬として広く知られていたこの地には、明治時代に出雲日御碕灯台が建設され、白亜の灯台が立つ今日の美しい風景が整いました。日御碕を訪れると、灯台越しに海に沈む夕日が、次々に打ち寄せる波頭や海に浮かぶ岩礁を赤く染める、絵画のような景色を觀賞することができます。

日御碕の西側にはたくさんの経巻が固まってできたという伝承が残る^{ふみしま}経島があります。春先から夏にかけては、島の上を飛び交うウミネコのシルエットが夕日の美しさに変化を加えます。また、毎年8月7日には、日御碕神社の神職によって夕日を背景にした「^{みゆき}神幸神事」が執り行われます。

日御碕神社にはスサノオを祀る神の宮とアマテラスを祭神とする日沉宮があります。日の出の太陽に象徴されるアマテラスは、ここ出雲では日の入りの夕日に象徴され、江戸時代には、日沉宮は日が沈む聖地の宮と称されるようになります。

さらに、南東の高台に鎮座する^{つきよみしゃ}月読社にはツクヨミが祀られています。アマテラスと対をなす神とされ、スサノオを含めて三貴子に称されるツクヨミもまた、この地の夕日を見守っています。

日が沈む聖地出雲

古来、政権の中心であった大和から見ると、太陽は北西の出雲に沈みます。このことから出雲は「日が沈む海の彼方の異界につながる地」として認識されたと考えられます。中央で編まれた『古事記』や『日本書紀』で、出雲が「^{よみのくに}黄泉国」と「地上世界」をつなぐ地として描かれているのは、古代の人々が出雲を「日が沈む地」とイメージしていたことに端を発するのかもしれませんが。

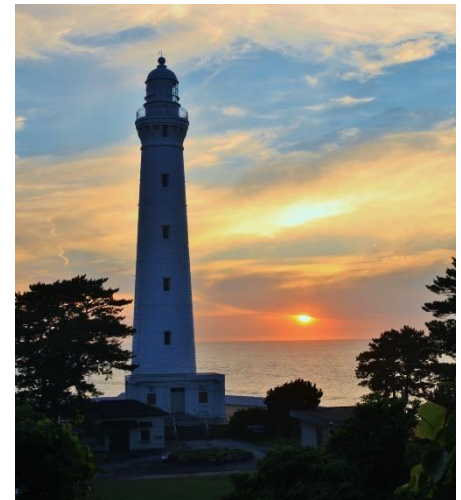
今日も出雲では夕暮れ時の挨拶として「ばんじまして」という方言が使われています。他の地域ではあまり耳にしない「こんにちは」と「こんばんは」の間を結ぶ挨拶で、夕刻に格別な思いを抱く出雲の人々の心情が垣間見えます。

穏やかな表情や荒々しい姿を見せる海岸線。それを舞台に圧倒的な存在感を示す夕日。両者が織りなす美しい夕景は神により創り出されたとこの地に生きた人々は感じてきたことでしょう。

出雲の海岸線に立って海に沈む美しい夕日に祈り、出雲神話にちなんだ神社や登場地を巡ると、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を体感することができます。



日御碕



出雲日御碕灯台と夕日



経島の夕日



日御碕神社の日沉宮

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	いなさ 稲佐の浜	未指定	『記紀』に描かれた国譲り神話の舞台。13.5km に及ぶ砂浜で出雲大社からも近い(西方1.2km) 弁天島がある浜は夕日を見に訪れる観光客も多い。本ストーリーの中心的な構成文化財。	
②	そのながはま 藺の長浜	未指定	『出雲国風土記』に描かれた国引き神話の舞台。ヤツカミズオミヅヌが国を引いた綱が藺の長浜になったという。稲佐の浜と同じ浜を示し、夕日の絶景エリアとして親しまれている。	
③	ひのみさき 日御碕	大山隠岐 国立公園	日本海に突き出た島根半島の北西端に位置する夕日が美しい岬。古来、出雲は大和から見て北西の日が沈む地とされたが、日御碕は出雲の中でも最も北西端に位置する。本ストーリーの中心的な構成文化財。	
④	ながはま 長浜神社	未指定	国引き神話で国(土地)を日本海から綱で手繰り寄せ島根半島を造ったとされる神ヤツカミズオミヅヌを祀る。藺の長浜の中ほどに位置する。	
⑤	かんどがわ 神戸川河口	未指定	藺の長浜で河口を日本海に開く。弥生時代以降、他地域の船を内海の「神門水海」に迎え入れる海の玄関口としての役割を担った。	
⑥	いずもおおやしろ 出雲大社本殿ほか	国宝・国重文 建造物	国譲り神話でオオクニヌシが国を譲るとひきかえに建立を求めた「天日隅宮」(日が沈む聖地に建てられた宮)。本殿内部では、神座が西向き(稲佐の浜の方角)に設けられている。境内には全国の神々を迎えた際の宿舎となる十九社などもある。	
⑦	かみむかえ 神迎神事	未指定	旧暦10月10日の夕刻に、稲佐の浜で執り行われる出雲大社の神事。この神事により八百万の神々が全国から出雲に参集し「神議り(かむばかり)」をおこなうとされる。神々が集まる旧暦10月を出雲では「神在月」と呼ぶ。	
⑧	かみのみや 上宮	県指定 建造物	出雲大社の摂社。旧暦10月に全国から集まった神々がここで「神議り」といわれる縁結びの会議をされるという社。旧暦10月11日から7日間はこの社で神在祭が行われる。	
⑨	おおどち 大土地神楽	国指定 無形民俗文化財	大土地荒神社の氏子により300年以上伝承されてきた出雲神楽。神社の例祭では夕刻から夜を徹して舞われるほか近年では稲佐の浜での「夕刻篝火舞」で舞を披露している。	

⑩	びょうぶいわ 屏風岩	未指定	稲佐の浜から 50m ほど東に入った山手にある岩。この岩陰でオオクニヌシが「国譲り」の話し合いをしたという伝承が残る。
⑪	ふでなげじま 筆投島	未指定	平安初期、画聖といわれていた巨勢金岡（こせのかなおか）が写生しようとしたが朝夕刻々と美しさが変化する姿をついに描ききれず絵筆を投げたという伝承が残る。
⑫	つぶて岩	未指定	国譲りの際にタケミカヅチとタケミナカタが力比べのために稲佐の浜から岩を投げあったが、力は互角で何回も同じところに落ち積み重なった岩であるという伝承が残る。
⑬	いずもひのみさきとうだい 出雲日御碕灯台	国登録 有形文化財	日御碕のシンボルとなる灯台。この地が海上交通の要衝であることを象徴する建造物で、そのシルエットが夕日の美しさを引き立てている。「世界の歴史的灯台百選」の一つ。
⑭	ひのみさきじんじやしやでん 日御碕神社社殿	国重文 建造物	スサノオを祀る神の宮（上の宮）、アマテラスを祀る日沉宮（下の宮）の二社がある。日沉宮は、太陽神アマテラスと日没の夕日を結びつける出雲ならではのユニークな観点といえる。
⑮	いずものくにふ じき 出雲国風土記 ひのみさきほん (日御碕本)	県指定 有形文化財	733 年に完成した『出雲国風土記』の写本。ほぼ完全な状態の写本が残るのは『出雲国風土記』のみである。
⑯	しろいとおどしよらい 白糸威 鎧	国宝 工芸品	日御碕神社の所蔵で鎌倉時代末から室町時代初期のものとする。アマテラスを祀る日御碕神社の隆盛を示す甲冑の優作。
⑰	つきよみしゃ 月読社	未指定	日御碕神社南東の山中にひっそりと佇む神社。日御碕神社の祭神アマテラス・スサノオの兄弟神であるツクヨミを祀る。この三貴子を近接して祀る事例は多くない。
⑱	ふみしま 経島のウミネコ繁殖地	国指定 天然記念物	ウミネコの繁殖地として有名な経島の名は、流紋岩の柱状節理が経巻を積み重ねたように見えることから付けられた。かつて日御碕神社の日沉宮があり、現在でも夕刻に行われる神幸神事の舞台となっている。
⑲	み ゆき 神幸神事	未指定	旧暦 7 月 7 日（現在は 8 月 7 日）の夕刻、日御碕神社の神職が経島に渡り執り行う神事。季節柄、夕日を背景に行われることが多いため、夕日の祭りとも称されている。
⑳	うりゅう 宇龍	未指定	日御碕の東に位置する港町。戦国期には山陰屈指の貿易港として、また江戸時代には北前船の風待港として栄えた。周辺の海岸線はあまり知られていない夕日の絶景エリア。

⑳	<p style="text-align: center;">ごんげんじま 権現島 (くまのじんじや 熊野神社)</p>	未指定	<p>日御碕神社の末社である熊野神社が祀られる島。海草をくわえたウミネコが日御碕神社の欄干にこれにかけて去ったという故事にならって旧暦1月5日に「和布刈神事(めかりしんじ)」が行われる。</p>	
㉑	<p style="text-align: center;">さざうら 鷺浦</p>	未指定	<p>宇龍と並ぶ北前船の港。毎年7月31日の夕刻には豊漁と海上安全を祈願する「権現祭り」が行われ、大漁旗を翻した漁船が連なって港に浮かぶ柏島(かしわじま)を一周する。夕日を背景にした船影が美しい。</p>	
㉒	<p style="text-align: center;">いのめどうくついぶつぼうがんそう 猪目洞窟遺物包含層</p>	国指定 史跡	<p>弥生時代から古墳時代の人骨が20体以上見つかり、『出雲国風土記』に記される「黄泉の坂、黄泉の穴」に当たるのではないかと注目されている。</p>	

構成文化財の写真一覧

① 稲佐の浜



⑤神戸川河口



② 菌の長浜



⑥ 出雲大社本殿ほか



③ 日御碕



⑦ 神迎神事



④ 長浜神社



⑧ 上宮



⑨大土地神楽



⑬出雲日御碕灯台



⑩屏風岩



⑭日御碕神社社殿



⑪筆投島



⑮出雲国風土記 (日御碕本)



⑫つぶて岩



⑯白糸威鎧



⑰月読社



⑳宇龍・㉑権現島 (熊野神社)



⑱経島のウミネコ繁殖地



㉒鷺浦



⑲神幸神事 (撮影：武智正信 氏)



㉓猪目洞窟遺物包含層

